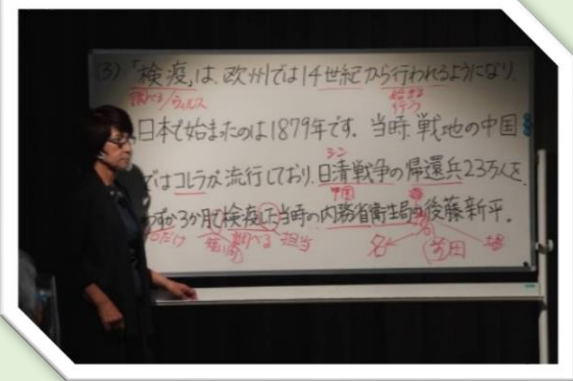


10月4日（日）北区コミュニケーション・モア 10月例会は、五十嵐郁子氏をお招きして、赤羽文化センター第1視聴覚室で開催いたしました。当日は会員19名・新会員2名・非会員2名、合わせて23名の方にご参加いただきました。

今回も「ズーム」「電話リレーサービス」「検疫」等、時宜にかなった単語が盛り込まれた短文の手話表現を学びました。



文例を一つ挙げると『検疫』は、欧州では14世紀から行なわれるようになり、日本で始まったのは1879年です。当時、戦地の中国ではコレラが流行しており、日清戦争の帰還兵23万人を、わずか3か月で検疫した当時の内務省衛生局長の後藤新平。」これを音声とともに手話表現するというもの。手話表現を学ぶだけでなく、歴史の勉強もできるというお得感満載の学習に、受講者は大いに満足されたことと思います。



コミ男とモア子のしゅわ談義



コミ男：今日の手話表現は難しかったね。一番にあてられて冷や汗が出ました。僕の手話は読み取れましたか？

モア子：はい。落ち着いて表現されていてわかりやすかったです。

コミ男：先生が「自分なりの言い方に代えて表現すればいい。言葉の一つ一つにこだわらないで。」とおっしゃったから、肩の力を抜くことができたのだと思う。

モア子：「画面を通して手話で会話できる」の文も、言葉どおりに「画面/通す/手話/会話/デキル」の表現だと見る人に通じないですね。相手の人が見て分かる手話表現って本当に難しいわ。

コミ男：空間を利用して位置関係をはっきり表すこと、指差しによって主語を明確にすることなど、身につけることはいっぱいあるね。次も頑張るぞ！

